

2025 高野小学校で大切にしたいこと ②1

2学期
スタートダッシュ

令和7年9月1日～9月5日 教職員での確認事項

第1回授業研究会お疲れさまでした！先生のやる気⇒子どものやる気に！

<授業についての参観者からの感想>

- ・どの学年もギミックと感情曲線を参考にしながら参観することで、児童と教師の動きが分かりやすかった。2学期早々のこの時期にありがとうございました。大変な学年と聞き、6年生の授業を見させて頂きました。普段とは違う環境だったようですが、安心感も感じられる授業で、とても頑張っていた。
- ・どの学年も授業に向かっていて、日頃の先生方の頑張りが伝わってきた。
- ・1年生の授業、ギミックひとつあることで、子どもたちのテンションが上がっているのが目に見えて良かった。感情を揺さぶるためのギミックを用意することで、子どもたちの学びたい意識も変わっていくことが分かった。
- ・3年生の国語の授業、子どもたちが主体となって話し合いが進められていて、凄いと思った。、今までの学習規律や授業の取り組む姿勢などが授業に表れていた。ワークシートや学びの足跡、見通しの持たせ方など、参考にしたい。
- ・5年生の討議、主活動の話し合いに向けての、付箋また事前のペアグループでの交流がギミックになっている点、とても参考になった。活動の連続性を感じた。どの授業も工夫をされていて見どころが詰まっていた。
- ・荒れている高野小学校という印象とはまったく違いました。落ち着いたからこそ、教科の力を引っ張り上げる授業を目指していきたい。
- ・高野小がまとまって非認知能力を伸ばそうと取り組んでいる成果が現れていると感じた。授業に入りにくい子ども達を、どの場面で見つないでいくかを、仕掛けという手段を意識して授業をされているのが良かった。仕掛けで、たくさんの子どもの意欲が高まって。教室の空気や関わる先生方の温かい雰囲気、とても良かった。これを続ければ、きっと穏やかな楽しい学校になります。
- ・児童が驚きや興味が素直に表出しながら取り組む姿から、考えこまれたギミックが有効だったことが伝わってきた。また、話を聞く姿や切り替えのはやさなどから、年度当初からの地道な取り組みが窺われ、授業の土台になり支えていると感じた。
- ・グループ活動を取り入れて子ども同士で協力し合う姿が見られた。教科の目標と非認知の2つのねらいを達成するには、実態把握と教材研究が大切だと感じ。・非認知能力や、ギミックについて、たくさんの学びがあった。子どもたちも大変よく頑張っていました。
- ・子供達がとても落ち着いて授業に取り組んでいた。それは先生方の落ち着いた授業作りと子供達の興味を高めるギミックの工夫などが大きいと感じた。
- ・2年生の授業を中心に、担任の先生が子どもの様子に合わせて、聞いたり・考えたり・話したりできるように、さりげなく工夫されている姿がとても印象的でした。低学年のうちに学びに向かう姿勢をしっかりと身につけさせ、その後、3年生から非認知力へとつなげていけるのは理想的だと感じた。
- ・担任の先生が、普段からにじりんを使って声かけを行なっているから、子どもたちから〇〇にじりんという声が出ていて、継続することの大切さを感じた。
- ・生徒指導困難校の高野小が授業を大切にされ、熱心に授業研究に取り組んでおられる現状を知り、感銘を受けた。児童の学びに向かう姿はもちろん、児童同士・児童と先生方の人間関係形成がうまく進んでいると思った。

教師が変われば子どもも変わることを実感した。学校全体で高い意識を持って取り組んでいることが、大変、素晴らしい。

【中山芳一先生から指導助言】 「心を伸ばそう！ 非認知能力を伸ばそう！ 振り返りをいかそう！」

- ・自分と向き合う力、自分を高める力、他者とつながる力 思考の脳は10歳頃から急激に伸びてくる。「頭が大人になり始める時期である。」
- ・自分のことを客観視する自己モニタリング＝メタ認知、価値観や信念としての価値基準を言語化すること、その基準で行動、選択する。
- ・子どもの行動（表情や言動を含む）を見とって非認知能力を評価する。『やり始めた行動 < 続けている行動 < 習慣になった行動』

2025 高野小学校で大切にしたいこと ⑮

令和7年7月29日 教職員で確認事項

全学年
実施

高野小学校チーム担任制は、効果的である！



ねらい

- ◎ 子どもたちの良さや頑張りを主担任だけでなく、学年団の複数の教員で多角的多面的に見ること。
- ◎ 学級の交換授業や合同授業により、多くの子どもたちに学年団が関わりを深くすることで、日常的な学級指導や生徒指導対応を即時に行う。子どもが相談や親しみやすい先生を増やことで子どもたちの困り感に寄り添う。
- ◎ 週ごとの教育活動の具体的な取組や考え方、指導等に学級間での不必要な差が出ないようにすること。



チーム体制について： 1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 6年生

2
本
柱

教科担任制 教科は各学年担任と専科で分担し、各学級担任が3～4教科の担当に絞る。⇒ 教科担当で学年全体を指導する

学年担任制 毎週火・木は「朝会－給食指導－帰りの会」学年内で入れ替える。⇒ 主担任(学級担任)はあるが、学級の壁をなくす



【チーム担任制のメリット】

- ☆ 学級担任だけで抱え込む学級経営負担が軽減され、情報共有や組織対応が進む。
 - ・学級運営を一人の担任に委ね、ほかの教員が干渉しない「学級王国」からの脱却。教員同士が連携する機会が増え、一人で抱え込んでしまうことも起きづらく、学級担任が学級内のトラブルを学年団や複数教員で対応し、問題解決を図る。
- ☆ 児童が、担任以外の教師と出会う機会が広がり、教員と児童の相性や多様性に対応できる。
 - ・複数の先生と触れ合え、先生から認められたり支援される機会が増える。児童との相性が悪い場合にも頼る先生を選ぶことができる。
- ☆ 同一内容での教科の指導回数が増えることで、授業の実践力が高まる。
 - ・従来の学級担任は、国語、算数、理科、社会等毎回の授業が1回きりの実践だったが、担当教科だけの準備で、同じ授業を繰り返すため、授業準備の負担が減り、授業反省も次に生かせるなどの自己リフレクションが可能となり、授業実践力が向上する。

【チーム担任制のデメリット】 ★時間割変更があると、先生の動きが複雑になるため、その対応が煩雑になる。

チーム担任制
のポイント！

意識改革

組織対応力

実践力向上

負担軽減

コミュ力活性化

情報開示共有

指導方針

人材育成